

## 京都・長岡京「風土遺産」を冊子に



後世に残したい長岡京市の風景写真を  
収めた冊子

京都府乙訓地域の地名詩を編さんしている市民団体チーム乙訓が、冊子「長岡京市の風土遺産—景観ビジュアルブック2016」を作った。昨年募集した次世代に残したい風景写真の優秀作品などを掲載したほか、市内の眺望や四季を題材にした文芸作品も収録している。

多くの文化遺産に恵まれる市の魅力を広く知ってもらおうと制作した。15年7月、京都大の学生らとともに、残したいと思う市内の眺望を市民にアンケートし、32の地点をピ

ックアップした。昨年、その中の10カ所を題材に写真コンテストを実施。今回の冊子は、一連の作業の集大成となる。

A4判のカラー刷り12ページ。表紙は、青空と真っ赤なキリシマツツジの対比が美しい長岡天満宮の写真を使用。ページをめくると、初夏の奥海印寺をモチーフに西山と田んぼの鮮やかな緑が目目を引く写真をはじめ、木々の下に伸びる走田神社の石段をとらえた小学生の作品、市内が一望できる西山公園体育館からの眺めなど、何げない風景でありながら郷土の美しさを感じさせる秀作が並んでいる。

空海や清少納言らの文芸作品を添えたほか、32地点を紹介する地図も載せている。チーム乙訓代表の鵜野高資さん（74）＝同市柴の里＝は「今後も作品を募って冊子にまとめ続け、ふるさとの良さを広めたい」と話す。

冊子は、2市1町の図書館や長岡京市観光協会などで閲覧できる。

【2017年06月02日 12時17分】